

製品名: CtBP1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09491**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	CTBP1
別名	CTBP1; CTBP; C-terminal-binding protein 1; CtBP1
遺伝子 ID	1487.0
SwissProt ID	Q13363
免疫原	抗血清はヒト CtBP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 388-437

背景

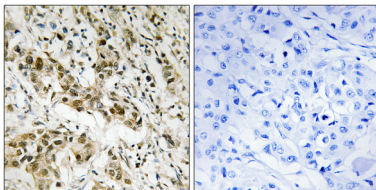
この遺伝子は、アデノウイルス E1A タンパク質の C 末端に結合するタンパク質をコードしています。このリン酸化タンパク質は転写抑制因子であり、細胞増殖中に役割を果たしている可能性があります。このタンパク質と、2 番目の密接に関連した遺伝子である

CTBP2 の産物は二量体化できます。両方のタンパク質は、発生中の遺伝子発現の調節に関与するポリコムグループタンパク質複合体と相互作用することもできます。この遺伝子からの転写物の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]補因子: NAD。E1A との効率的な相互作用に必要です。補因子の結合により、構造変化が誘導されます。機能: ゴルジ体における管状構造と積層構造の平衡制御に関与しています (類似性による)。GLIS2 などの多様な転写調節因子を標的とするコリプレッサーです。脱水素酵素活性があります。PTM: ADP リボシル化;細胞がブレフェルジン A (BFA) にさらされると、リン酸化が促進されます。PTM:Lys-428 の SUMO 化は、E3 SUMO タンパク質リガーゼ CBX4 によって促進されます。PTM:リン酸化のレベルは細胞周期中に制御されているようです。DNA 損傷 (おそらく ATM または ATR による) によりリン酸化されます。HIPK2 による Ser-422 のリン酸化は、プロテアソーム分解を誘導します。類似性:D 異性体特異的 2-ヒドロキサン脱水素酵素ファミリーに属します。サブユニット:アデノウイルス E1A タンパク質、ELK3、および CTIP の C 末端と、それらのコンセンサスモチーフ P-X-[DNS]-L-[STVA]を介して相互作用します。CTBP1 および CTBP2 のホモダイマーまたはヘテロダイマーを形成できます。FOXP2、HDAC4、HDAC5、および HDAC9 と相互作用します。GLIS2 と相互作用するが、GLIS1 および GLIS3 とは相互作用しない (類似性による)。FOXP1、HIPK2、PNN、NRIP1 と相互作用する。ZFHX1B および WIZ と相互作用する。エプスタイン・バーウイルス EBNA3 および EBNA6 と相互作用する。

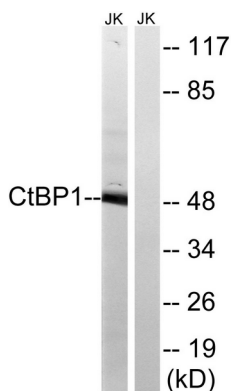
研究分野

WNT、WNT-T 細胞、Notch、がんにおける経路、慢性骨髄性白血病、

画像データ



CtBP1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



CtBP1 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。

CtBP1 ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析

